

第6学年 体育科学習指導案

日 時 平成27年10月23日(金) 6校時
 児 童 6年2組男子17名女子18名計35名
 授業者 徳 江 周 治

1 個人課題

課題解決に向かって、共に学び高め合おうとする児童の育成
 ～互いの良さを認め合う場のある体育学習の在り方～

2 単元名 マット運動

3 単元について

(1) 児童について

体育の好きな児童は18人、「嫌い」が4人、「どちらとも言えない」が4人である。マット運動に限ってみると、マット運動が「好き」は10人、残りの児童は「嫌い・どちらとも言えない」で23人である。好きなどころとしては「できない技ができたとき」「いろいろな技に挑戦できる」である。嫌いなどころとして

は、「技ができない」「こわい」「痛い」があげられている。

クラスの雰囲気として、友達を思いやったり励ましたりという部分があり見られない。そのようにしたい気持ちはあるが、なかなか出せないと言ったほうがよい。男子の中で、人を責めるなどの言動をとる児童がいるため、他の児童はなかなか自分を出せない様子が見られる。

本単元では、難しい技に挑戦しないように基本的な技から発展技に進むようにしていきたい。また、少しでも恐怖心が無くなるよう、工夫した場や補助を付けながら運動するようにしていきたい。教え合ったり、認め合ったりする場を設けることで、少しでも仲間を大切にす雰囲気を作られることを目指して取り組みたい。

(2) 教材について

- ・自分のめあてとする回転技や倒立技に取り組み、できるようになるのが楽しい運動である。
- ・回転技、倒立技、静止技などから、できる技を繰り返したり組み合わせたりするのが楽しい運動である。
- ・グループやペアで教え合ったり、励まし合ったりするのが楽しい運動である。

4 単元の目標

- (1) できそうな技を安定してできるようにしたり、組み合わせでできるようにしたりする。
- (2) 約束を守り、友達と教え合ったり認め合ったりして安全に運動できるようにする。
- (3) 技のポイントを発見したり、つなぎの技を取り入れたりして組み合わせを考えることができる。

5 単元計画

分	1	2	3 (本時)	4	5	6	7
0	☆オリエンテーション	☆動きづくり	☆組み合わせ技にチャレンジ		☆動きづくり	☆自分の課題技	まとめ
45	1 技調べ	☆組み合わせ技にチャレンジ	・ジャンプ技バランス技を入れて、できる技を繰り返したり組み合わせたりする。		☆組み合わせ技にチャレンジ		組み合わせ技を発表し合う。
	2 学習の見通し	☆技にチャレンジ	☆技にチャレンジ	☆技にチャレンジ		☆組み合わせ技にチャレンジ	
	3 動きづくり	○倒立技にチャレンジ	○回転技にチャレンジ	○回転技にチャレンジ			
	・首倒立・かえる倒立・足打ち	・頭倒立・側方倒立回転	・大きな前転・開脚前転・開脚後転	・大きな前転・開脚前転・開脚後転			
	・補助倒立・ブリッジ・ホップ	※発展技として	※発展技として	※発展技として			
	・うさぎ跳び等	・ロンダート	・倒立前転・跳び前転・伸膝後転	・倒立前転・跳び前転・伸膝後転			
	4 場の確認						
取上技	○基本的な技	・大きな前転 ・開脚前転 ・開脚後転 ・補助倒立 ・頭倒立 ・ブリッジ ・側方倒立回転					
	○発展技	・倒立前転 ・跳び前転 ・伸膝前転 ・倒立ブリッジ ・ロンダート					

6 本時の指導 (3/7)

(1) ねらい

自分の課題を考えながら側方倒立回転をできるようにしたり、技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。

(2) 評価規準

評価規準 B (評価方法)	支援を要する子への手立
・手手足足の順に着きながら、側方倒立回転ができる。(相互評価, 観察, 自己評価)	・工夫したマットでの練習や友達から補助を受けながら練習するようにさせる。

(3) 指導にあたって

側方倒立回転の練習ステップカードを用意して、自己の練習方法を選択させて、「できないから嫌い」「こわいから嫌い」という児童にも積極的に運動を行わせたい。また、友達と教え合いをすることによって、一人だけで行っているという孤独感を取り除き、連帯感をもって運動できるようにする。また、上手にできた児童には、発展技のロンダートに挑戦させるようにする。

組み合わせ技の運動では、側方倒立回転の終末の体勢からどのように次の技に途切れないうにつなげるかを意識させて練習させるようにする。

☆視点に関わって

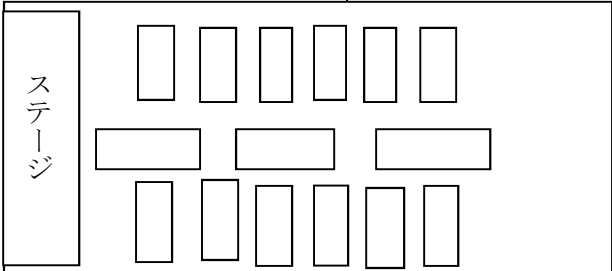
視点1

- ア 段階を踏んだ練習の場の設定。
- イ 技のポイントへの気付きを助けるための取り立て指導。
- ウ 教師の声掛け、友達同士の声援、励まし。
- エ 課題を達成するための工夫した場の設定と友達同士の補助。
- オ 学習カードによる、課題の明確化。

視点2

- カ グループやペアでの技のできばえの相互評価 (技への挑戦)。
- キ グループ内での見るポイントの役割分担

(4) 展開

段階	学習内容	指導上の留意点・視点・評価 (★…個人課題)	準備物等
導入	1 あいさつ 2 動きづくり ・首倒立 ・かえる倒立 ・足打ち ・補助倒立 ・ブリッジ ・ホップ ・うさぎ跳び等 3 場づくり	・できるだけ大きな動作で行う。 ・自分のできる範囲で行わせる。 ☆視点1 一生懸命な動きや大きな動き等への声掛け	リズム太鼓
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">  </div>	・協力して行う。 ・用具器具の安全を確かめる。	マット
	4 めあての確認 側方倒立回転に挑戦しよう。	・側方倒立回転のポイントを確認する。 ① 手手足足の順につく。 ② マットの縫目2列分に手と足をつく。	

10分		(できた人は、1列分で) ③ 膝が腰より高く。足が膝より高く。伸ばして。 ・ポイント通りできている児童に、手本を見せてもらい、イメージ化を図る。	学習カード
展開	<p>5 側方倒立回転にチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の練習場所で技に挑戦する。 <p>・お互いにできばえを確かめる。</p> <p>・課題解決（達成）した児童等を紹介する。</p> <p>6 技にチャレンジ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 側方倒立回転とできる技を組み合わせよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・側方倒立回転の終末の体勢から次の技へのつなぎを工夫する。 	<p>・練習場所の確認をする。</p> <p>☆視点1・視点2 教え合いや認め合いを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の良い部分を紹介させてから行わせる。 <p>○次の場合、集合し取り立て指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技ポイントを考え全体のものにしたい時 ・全体の動きが停滞気味の時 ・集中性が無くなってきた時 ・できている児童には、ロンダートへ挑戦させる。 <p>☆視点2・視点3 役割分担をしながら、ポイントを確認め合う。</p> <p>★ 友達の良い部分を紹介させてから行わせる。</p> <p>☆視点1 何人かの児童の取り組み技の紹介し自分の技を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平らなマットで3回続けてできたら帽子を赤にすることを確認する。 <p>★ グループやペアで、つなぎ方を教え合ったり、うまくいったところを認め合ったりさせる。</p> <p>☆視点1 上手くいかない児童には向きの変え方やバランス技を入れるなどのアドバイスをする。</p> <p>★ 友達の良さを認め合う。</p>	手形，足形
25分	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決（達成）した児童等を紹介する。 		
終末	<p>7 学習の振り返り</p> <p>8 片付け</p> <p>9 次時予告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードで今日の学習を振り返る。 ・時間がある児童は、ポイント発見欄にも記入させる。 ・次の時間は回転技に挑戦することを知らせる。 ・特に使った手首，首等をゆっくりまわす。 	学習カード
10分	10 あいさつ		